

【 「うた乃」の本圃直接定植】～窒素中断～

本圃直接定植法では、7月下旬から8月初め頃に406穴セル苗を本圃に定植し、花芽分化を誘導するため8月下旬から窒素中断を行います。窒素中断は本圃直接定植における最も重要なポイントになります。

窒素中断は、遅れすぎると花芽分化が遅延し収穫開始が遅れますが、早すぎても株が小さいまま生育が止まったり、出蕾や開花の遅れにつながります。

なお、「うた乃」は本圃直接定植時期が早い（7月上中旬）と、その後の心止まり株が発生しやすくなる傾向があります。

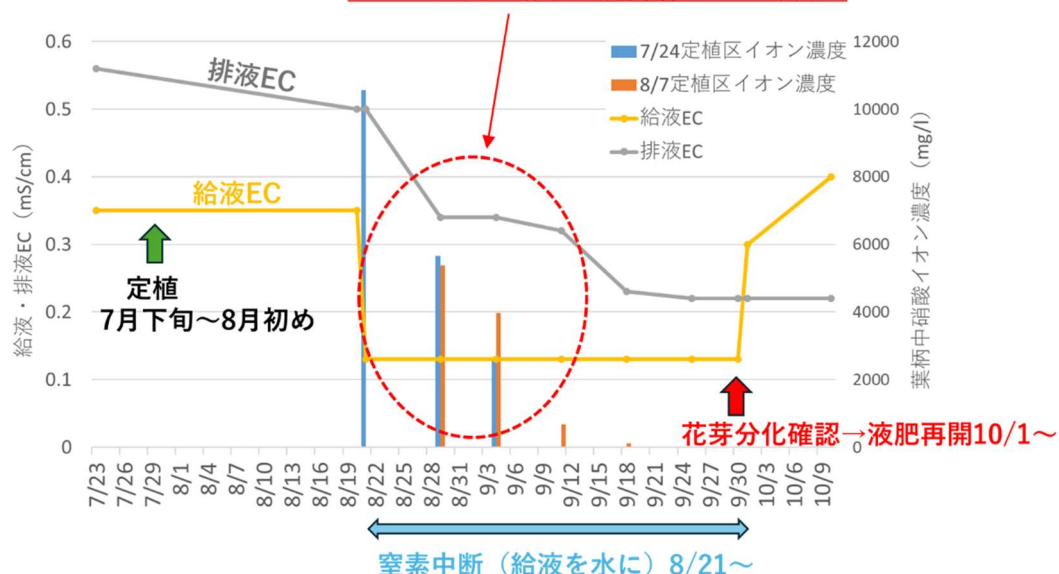
農業研究所では令和7年度作は8月21日から窒素中断を行い、9月末に花芽分化を確認し、給液を再開しました（12月上旬から収穫開始）。今年度作は8月20日時点の葉柄中硝酸イオン濃度や排液ECが低かったため、窒素中断開始は8月25日以降に遅らせる予定です。

以下のグラフは、令和7年度作の給液・排液ECや葉柄中硝酸イオン濃度の推移です。このグラフは農業研究所の圃場での結果であり、各圃場の培土条件や栽培システムにより反応が異なる可能性が高いことに注意してください。

排液ECや、可能であれば葉柄中硝酸イオン濃度を測定し、ご自身の圃場に合うベストな管理方法を見つけ出す必要があります。初めて取り組む際は、小規模での栽培をお勧めします

農研令和7年度作の事例

窒素中断開始後、排液ECや葉柄中硝酸イオン濃度はすぐに下がらない
※この反応が培地や栽培条件によって異なる



【参考】令和8年度作における農業研究所の本圃直接定植苗の様子



左：7/23 定植区 右：8/6 定植区（8月20日撮影）

《8月20日の生育状況》

7/23 定植区

草丈：12.1cm、クラウン径：6.9mm、葉柄中硝酸イオン濃度：6,260mg/l

8/6 定植区

草丈：6.4cm、クラウン径：3.2mm、葉柄中硝酸イオン濃度：3,840mg/l

《栽培管理条件（8月20日時点）》

施肥：養液土耕6号、EC0.25mS/cm(原水 EC0.12、排液 EC0.25)

給液量：株あたり約210ml/日（2分×3回）

※栽培層上部に窒素成分を含む新しい培土を充填したこともあり
定植後の排液 EC が 0.45 と高めだったため、給液 EC は低めで管理
を行いました。

培土量：約3.8L/株

遮光ネット：ワリフ明涼（40%遮光、外張り）

本圃直接定植後の気温（℃、農研単棟ハウス内）

